

日本百名山 登山日記

歩みを止めなければ、いずれ頂に辿り着く、そんな山日記です



vol.29 祖母山(日本百名山 33/100)

山口県在住で登山する人が最初に登る1,500m以上の山はくじゅう連山（久住山や中岳）ではないでしょうか？私も例に漏れず、最初に登ったのはくじゅう連山であり、云わば地元の低山からのステップアップに丁度いい山であると言えます。

そんなくじゅう連山の頂から、南に目を向けると広大な山地が広がっています。九州の母なる山、祖母山（標高1,756m）とその山系の山々です。祖母・傾・大崩山系は、私の中では九州でもっともタフなコースを有すると言え、ラスボス的な祖母山をはじめ、飛車角である大崩山（日本二百名山）に傾山（日本三百名山）、また夏木山、五葉岳、鹿納山など非常にバラエティに富んだ山容と美しい渓谷、そして九州で唯一、ニホンカモシカが生息する自然豊かな山域は非常に私好みと言えます。

また、国内のごく限られた地域にしか生息しないイワメ（無斑アマゴ：天然記念物）が生息する溪流沿いを歩けることも魅力の一つです。＜ユネスコパーク（生物圏保存地域）に認定＞

これらの山域には何度も足を踏みいれていますが、飽きることがありません。また、尾平登山口からの祖母山や健男社からの大障子岩、坊主尾根からの傾山など、累積標高差が大きくトレーニングにはうってつけです。ギリギリ日帰り圏内の山なので、ガッツリ登りたい時に行くようにしています。



傾山から主峰の祖母山への縦走路を見る（一番奥の霞がかった山が祖母山）



出典:ヤママップ地図

しかしながら、最初に祖母山に登った時は、自分に登れるのだろうかという不安や恐怖との戦いでした。残暑厳しい9月、その頃は九州百名山踏破を目標に登り始めた駆け出しのころで、祖母山系の緩木山にソロでチャレンジしていました。で、体力的に余裕があれば祖母山にも登ろうとオプションとして計画は立てていましたが（下山は神原登山口への周回）、チャレンジした結果、無事に下山は出来たものの、かなり疲弊してしまいました。

ただ、その時に祖母山の懐の深さに触れ、翌週にはまた祖母山へ登っていました。その時は尾平越えから古祖母山を経由し、黒金尾根登山道から下山、そして翌日は、愛山新道から大障子岩に登り、そこから稜線沿いに祖母山に登頂、宮原ルートから尾平登山口へと下山しました。このルートは登山をはじめて間もない私にはかなり厳しく、良い経験を積ませてもらいました。



また尾平登山口からの周回や、神原登山口からのピストンもしました。ちなみに尾平登山口から登る黒金尾根は九州で一番遭難が発生するルートと言われています。急登で体力的に厳しいだけでなく、滑落の危険性や道迷いが多く発生するようです（個人的には傾山の坊主尾根の方が厳しいと思っています）。

あと、かなりきつく道迷いも多発、技術的にもそれなりの登山知識が必要となる健男社から大障子岩への縦走路は、久住山などからのステップアップに最適なコースだと思います。

また、この山域の厄介なところは、岩の山であるが故、木の根が登山道に剥き出しであり、これが雨上がりなど滑る滑る。急登と岩場も含め、本当に危険極まりないぐらい滑ります。

但し、祖母山や傾山は厳しいルートばかりではなく、初心者でも比較的短時間で登れるルートもあるので、興味がある方はチャレンジされてみてはどうでしょうか？

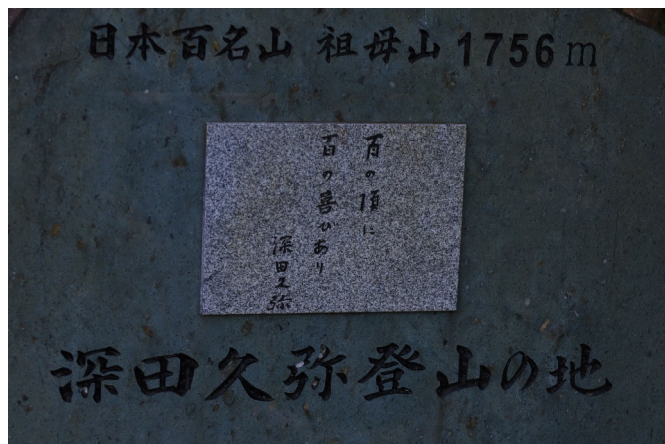
祖母山についてもう少し説明を加えたいと思います。

祖母山は日本百名山であり、宮崎県最高峰の山でもあります。測量技術の発達する以前は、九州本土の最高峰と考えられていました（九州本土最高峰はくじゅう連山の中岳 標高1,790m、九州最高峰は屋久島の宮之浦岳 標高1,930m）。

祖母山は神武天皇の祖母、豊玉姫命を祀られていることから、この山名になったと言われおり、日本百名山の著者である深田久弥氏は、神原から登山し「品格の山」と表現してその一座に加えています。さて、今回のコラムは、深田久弥氏が辿った神原からの山行の様子を中心に、過去に登った際に撮った写真を交えて報告したいと思います。



深田久弥 祖母山登山の記念碑



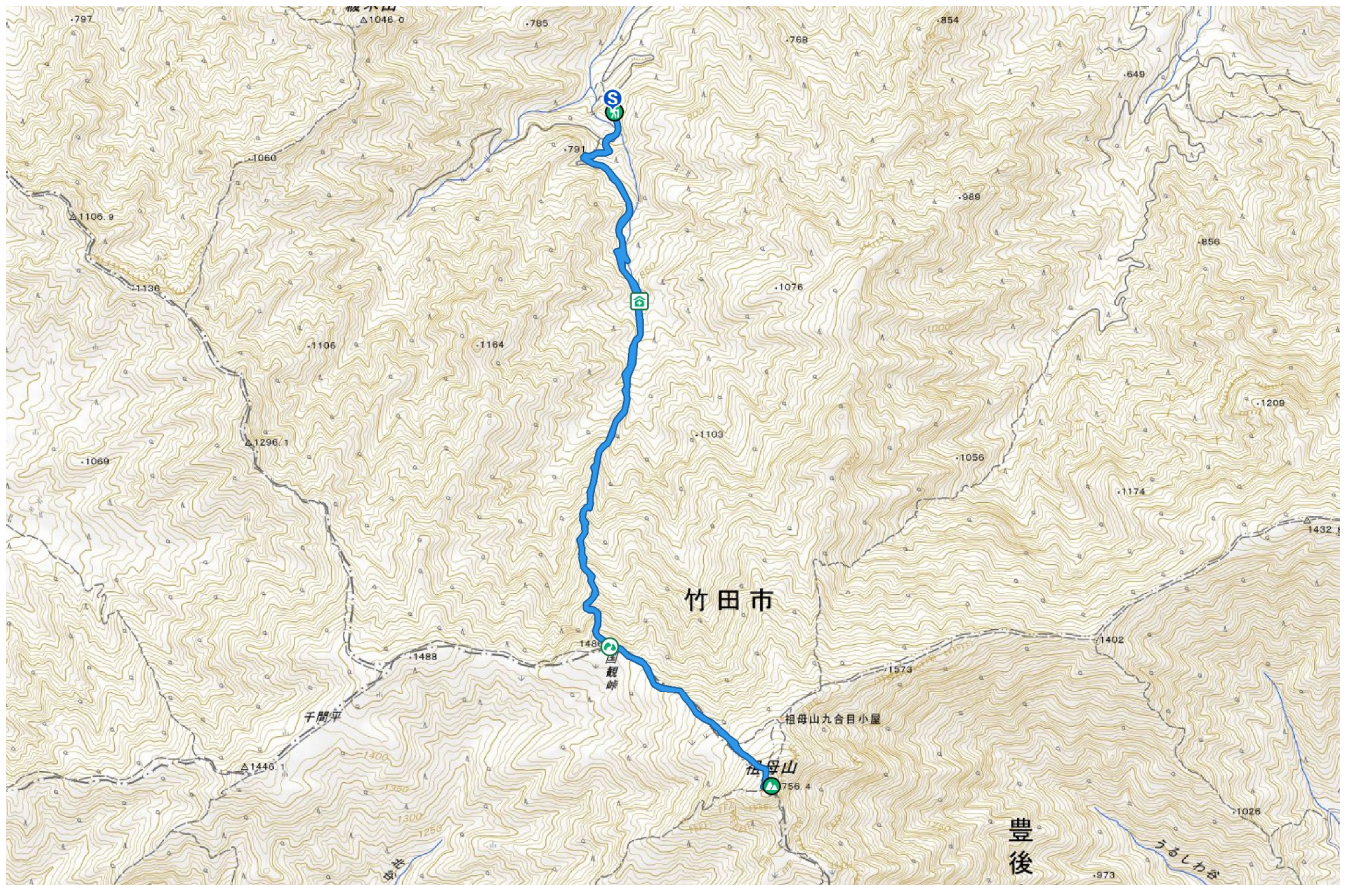
記念碑のアップ：百の頂きに百の喜びあり



障子岩から見る大障子岩



大障子岩の山頂から見る祖母山への縦走路



登山データ：距離 7.8km 累積標高上り 1,093m 登山区分 日帰り（ヤママップのデータを転記）

祖母山へは自宅から約3時間半、東九州自動車道を南下、大分の米良インターで降り、その後国道10号を経由し九州横断道で竹田市へ、そこから神原（こうばる）登山口を目指します。

尾平登山口までは、狭い道が長い距離続きますが、神原方面は二車線の整備された道（一部、単車線）を使うので快適に到着出来ます。

さて、広域農道から林道に入るとそこはうっそうとした植林地帯、時は4月初旬、花粉症の私にとっては地獄のような場所です。林道には離合場所が無いので対向車が来ないことを祈りつつ数分走ると、神原登山口に到着します。

さすが日本百名山、駐車場やトイレも整備されていますが、日本アルプスや関東近郊の山、また同じ九州でもくじゅう連山や阿蘇山に比べて登山者の少ないこと少ないこと（笑）。

但し、静かな山歩きが楽しめるのが魅力でもあるので、そんな祖母山が私は大好きです。

さて、駐車場で準備を整え、美しい渓谷沿いを約30分歩くと五合目の山小屋に到着します。



神原登山口と駐車場



駐車場には立派なトイレがあります

実はこの五合目は、道路が出来る前に麓から歩いた際の五合目であり、現在は昔の4合目近くからスタートしています。

この五合目山小屋付近までは、登山道も整備され、ハイキングコースの様相を呈していますが、このあとは祖母山の本来の姿となります。

ほぼ手付かずの原生の山であり、八合目付近までは岩と木の根の登山道、それから山頂までは岩だけでなくズルズル滑る火山灰との戦いとなります。



最初は沢沿いを歩きます



整備の行き届いている五合目の山小屋



五合目を過ぎると登山道は尾根沿いに



整備されていない感じが素晴らしい

祖母山自体の成因は約300万年前の隆起によるものとされていますが、その元となる山地は1500万年～1400万年前の火山活動によって形成されたとされ、古い火山群となっています。

その後、河川侵食や阿蘇山系の大規模な活動による火砕流の影響を受けて、現在の祖母山の姿になったと言われています。また、祖母山周辺は銅、錫、鉛やマンガン、水晶などの鉱物資源が豊富であり、江戸時代から昭和中期まで採掘が行われ日本有数の鉱山として栄えていました。尾平登山口から登ると、その痕跡を見ることが出来ます。

さて、尾根沿いの急登を約1時間30分上ると国見峠に到着です。祖母山はどこから登っても木の根と岩が目立つ急登ですが、個人的に好きなのはこの神原からのコースと祖母山を満喫できる尾平登山口からの黒金尾根コースです。

国見峠からは、目の前に祖母山の山頂を見ることが出来ます。ここまでくれば、山頂との標高差は約250m、時間にして約40分で到着です。山頂は広く、ゆっくりとくつろぐことが出来ます。

山頂からの風景で、まず目に入るのが、南に続く祖母山系を形作る古祖母山や親父岳への縦走路、そして東に延びる大障子岩や障子岩、また日本三百名山である傾山が祖母山に敬意を表して傾いて（お

辞儀して) います。また、その奥には大崩山や夏木山、五葉岳などの九州の秘境と言われる場所も見ることが出来ます。北に目を移すとくじゅう連山、北西に目を向けると阿蘇山が存在感を表し、くじゅう連山の少し東には、視界が良ければ由布岳の双耳峰も確認することが出来ます。

そして、南西側には国見岳を主峰とする広大な九州脊梁山地が広がり、どの方角を見ても美しく、登山の陰しさも相まって登頂の満足度が高い山と言えます。



祖母山山頂



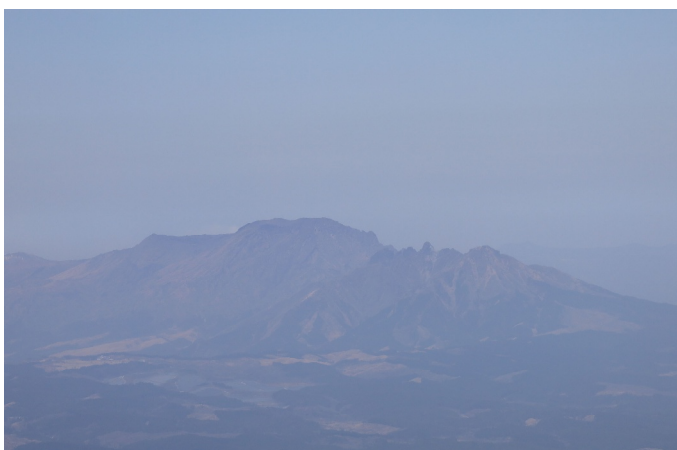
大障子岩への縦走路と右奥に傾山



眼下には尾平登山口と鉾山跡



マンサクの花と奥にくじゅう連山



残念ながら阿蘇山は霞がかってぼんやり



古祖母山への縦走路

人によっては、樹林帯の中を長時間歩くことから祖母山はつまらないと言います。交通の便が良く、荒涼とした非日常の風景が目を楽しませてくれ、登りやすく誰でも気軽に行ける人気の百名山のくじゅう連山や阿蘇山などがすぐ側にあることから、祖母山はあまり目立つ山ではないような気がします。ただ、静かに佇む姿、そして山としての美しさは、まさに「品格の山」と呼ぶに相応しい百名山だと思います。